



ウシが描かれた面



ウマが描かれた面

福岡県上毛町のハカノ本遺跡から室町時代(約 650 年前)のウシが描かれた絵馬が出土しました。絵馬は、神様に願い事をするとき生きたウマを奉納する風習が、ウマの絵を描いた板を奉納するようになったものです。中世になるとウマ以外の絵も描かれるようになりました。

この絵馬は現在の絵馬のように紐でさげるのではなく、釘で打ち付けていたらしく釘孔があいています。裏面にはウマが描かれているので、柵のような所に打ち付けて両方見ることができるようにしたのではないのでしょうか。色はついておらず、何かを引いているようですが残念ながら墨が薄れて見ることはできません。角を虫の触角のように表現したユニークな絵です。